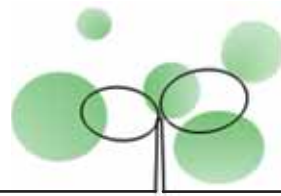


みんなのみなみ みなみのみんな

城南まちづくり 作戦帳

2023 ▶ 2033



ふれ愛の町みなみ

目次



第1章 城南地区を取り巻く環境1

- 1 位置・気候
- 2 概況
- 3 人口の推移
- 4 公共施設・準公共施設
- 5 福祉施設・医療機関
- 6 ため池・公園・神社
- 7 歴史街道・マップ



第2章 これからのまちづくり9

- 1 まちづくりの考え方
- 2 まちづくりの4つの指針
- 3 計画期間
- 4 計画事業
 - (1) 安全と安心のあるまち
 - ① 防災事業
 - ② 防犯・交通安全事業
 - (2) 美しく互いにささえあうまち
 - ① まちの美化事業
 - ② 自然環境の保全事業
 - ③ 地域ささえあい事業
 - (3) にぎわいと文化のあるまち
 - ① にぎわいの創出事業
 - ② 文化の継承事業
 - ③ 健康づくり事業
 - (4) 子どもがすくすく育つまち
 - ① 子ども支援事業
 - ② 交流事業



第3章 資料編20

- 1 コミュニティ組織一覧
- 2 主な事業内容一覧
- 3 アンケート結果と分析
- 4 計画策定資料
 - (1) まちづくり計画策定経過
 - (2) まちづくり計画策定委員名簿

はじめに

新しい元号「令和」になり、はや、5年目となりました。平成から令和へと、社会は大きく変化しました。平成23年をピークにして人口減少が始まったことから昨今のコロナ禍まで、私たちは、予想をはるかに超える問題に直面してきました。

城南地区は、平成22年度に初めて「城南地区まちづくり計画」を策定して、10年以上が経過しました。その間、城南地区は、田畑が減り宅地化が進んだこと、若い人たちの転入により人口が増加したことに伴って城南小学校の児童数も増加したこと等、他地区には見られない変化が訪れました。その間、みなみの先輩方が築いてきてくださった「ふれ愛みなみ」の精神を引き継ぎ、新規事業に取り組み、コミュニティ組織にも「学校支援部」（後に子ども支援部と改称）を創設しました。

今年度、まちづくり計画を更新するにあたり、自治会ならびに小学校・保育所等の保護者にアンケートを実施したところ、1,786世帯（回収率約68%）から回答を得ることができました。皆様から頂いた貴重な意見をもとに、「まちづくり計画策定委員会」で話し合い、これからの10年間を見据え、4つの指針でまちづくりをしていくこととしました。そして、その指針を具体化するために、コミュニティ組織を8部から6部に改編しました。さらに、「ふれ愛みなみ」の精神を、より分かりやすく「みんなのみなみ みなみのみんな」をスローガンに掲げました。誰もが幸せになれる、誰一人取り残さない、城南地区を目指そうということになりました。

策定委員のメンバー、貴重な意見をいただきました関係の皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。「ふれ愛の町みなみ」は、皆様のご協力を得なければ前に進むことはできません。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

ふれ愛の町みなみ 会長 五百森 信幸

4つの指針

- ◎安全と安心のあるまち
- ◎にぎわいと文化のあるまち
- ◎美しく互いにささえあうまち
- ◎子どもがすくすく育つまち

第1章 城南地区を取り巻く環境

1 位置・気候

城南地区は、丸亀市の中央部より少し北に位置しています。南は遠くに阿讃山脈、北には丸亀城を、そしてその向こうには、瀬戸内海が広がっています。西には金倉川、東には土器川が流れ、その間に丸亀市内でも有数の広さを誇る田村池を有しています。

気候は、温暖にして災害も少なく穏やかであり、とても住みやすい地域であるといえます。しかし、瀬戸内式気候の影響で雨が少なく、水には昔から苦勞をし、ため池が多く造られてきました。

2 概況

城南地区には、田村町・柞原町・原田町などの地名からもわかるように昔から豊かな田園地帯が広がっている地域でした。ため池には、多くの渡り鳥が飛来し四季折々の姿をみせるなど、美しい自然環境に恵まれています。また、郷土料理や獅子舞など地域に伝わる伝統・風習は、今まで住民の手によって継承されてきました。

しかし、平成16年の都市計画区域の変更後、多くの農地が宅地化され、現在は、豊かな田園風景が随分少なくなっています。分譲住宅の急増により、さまざまな地域から人が移り住むようになりました。それに伴い、人口は著しく増加していき、大型商業施設も多く進出し、私たちの生活は便利になってきました。

一方で、農家の高齢化や担い手不足により、農業離れが深刻化しており、多くの耕作放棄田が見られます。急激な人口増加は、交通量を増やし、道路の危険箇所を増加させています。

また、防災の観点から城南地区をハザードマップで見ると、丸亀市内では比較的 안전한地域と言えますが、これからの時代、大きな自然災害が起こることが予想されます。私たちは、その"時"に対応できる備えをしておかなければなりません。

3 人口の推移

(1) 令和5年1月1日現在の人口

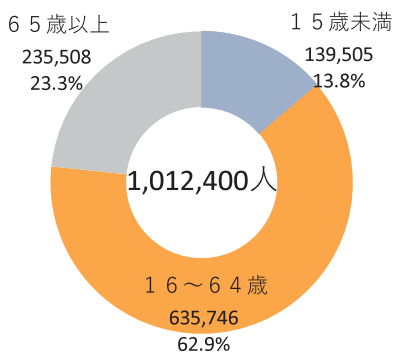
11,006人

※出典：丸亀市HP「常住人口」

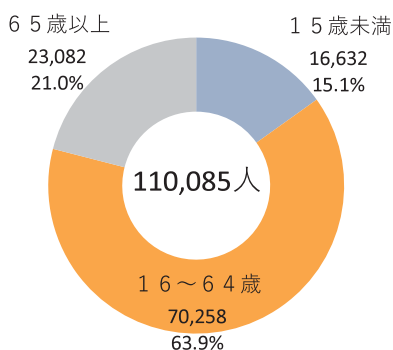
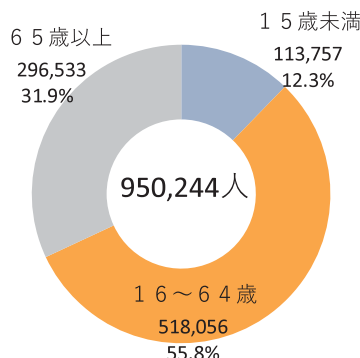
(2) 年齢別人口

平成17年10月1日現在

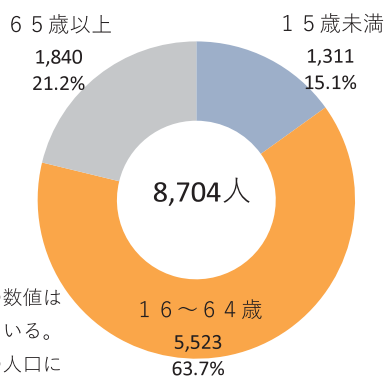
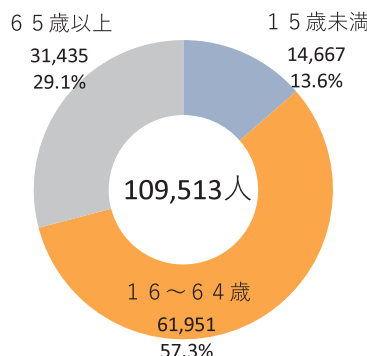
令和2年10月1日現在



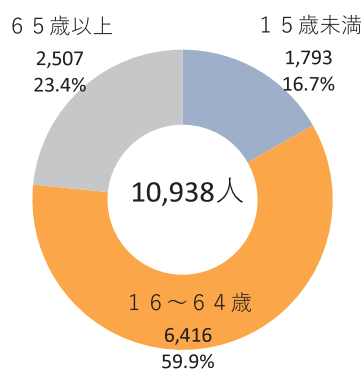
香川県



丸亀市



城南地区



(注1) 円グラフ内の数値は人口を示している。

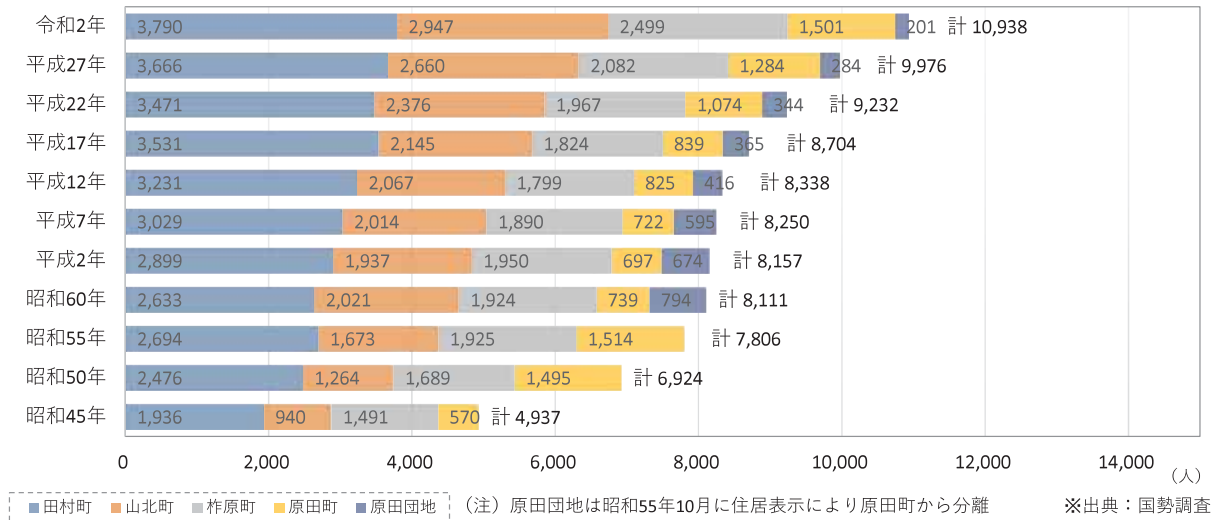
(注2) 円グラフ内の人口に「年齢不詳」を含んでいる。

※出典：国勢調査

香川県や丸亀市において、人口は少子高齢化や県外への転出超過により減少する一方、年齢別人口では『団塊世代』が「65歳以上」に到達したため、「15歳未満」「16～64歳」が減少し、「65歳以上」だけが増加した。

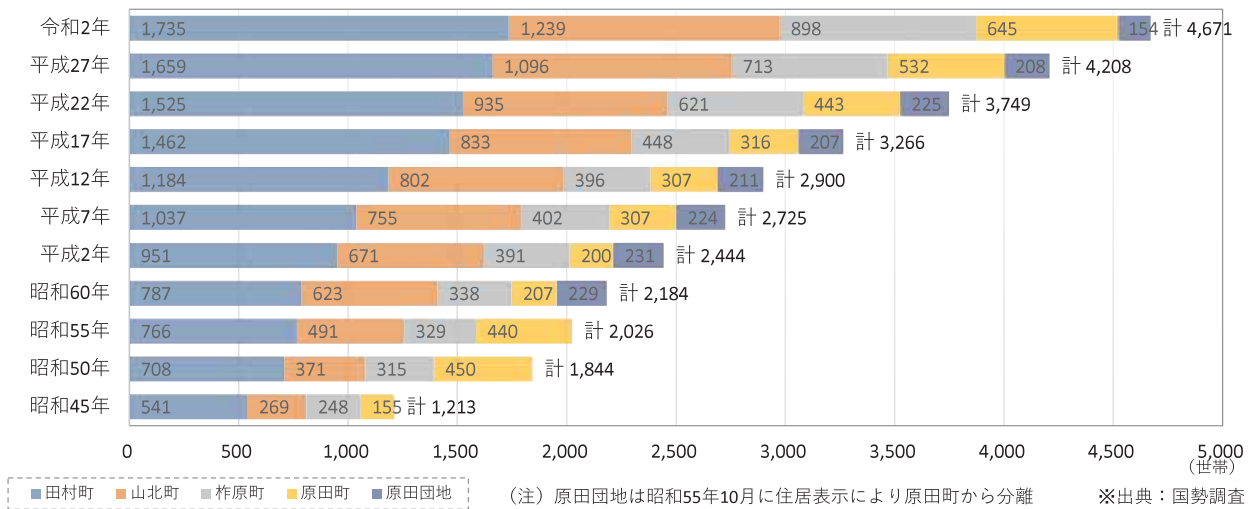
そのような中、城南地区は人口が増加しており、年齢別人口で「15歳未満」が実数および割合ともに増えているのが顕著である。アンケート調査で7割の住民が「商業施設が充実し、生活に便利。」、5割の住民が「災害が少なく、安心して暮らせる。」と回答しており、ファミリー層がマイホームを購入して引っ越してきたことが主な要因であると思われる。

(3) 町別人口



原田団地を除く4町で人口は増加した。特に、都市計画区域の線引き廃止（平成16年）以降は農業従事者の高齢化もあって農地の宅地化が進み、分譲住宅として整備されたことにより山北町、柞原町、原田町の人口が急増した。原田団地は、住民の高齢化や入居の募集停止により人口は減少の一途をたどっている。

(4) 世帯数



原田団地を除く4町で世帯数は増加した。中でも、柞原町と原田町の増加が著しく、ここ15年間で世帯数が倍増している。

一世帯当たり人員の人数は減少傾向にあり、住民の高齢化や分譲住宅整備などの影響によりひとり暮らし高齢者が増え、核家族化が進行しているといえる。

4 公共施設・準公共施設

丸亀市立城南小学校（田村町）

丸亀城南虎岳幼稚園（田村町）

丸亀警察署田村交番（田村町）

丸亀市消防団第6分団屯所（山北町）

ポートピアまるがめ（原田町）

丸亀市立城南保育所（山北町）

虎岳保育園（田村町） はらだこども園（原田町）

丸亀市城南コミュニティセンター（山北町）

消防団機械・器具置場（田村町・原田町）

丸亀市放課後留守家庭児童会青い鳥教室（山北町）



《城南小学校》



《城南保育所》



《消防団第6分団屯所》



《城南コミュニティセンター》

5 福祉施設、医療機関

（1）福祉施設

児童養護施設 亀山学園（柞原町）

介護老人保健施設 福寿荘（柞原町）

相談支援事業所 はなぞの（柞原町）

共同生活援助事業所 花園荘（柞原町）

地域小規模児童養護施設 和みの家（柞原町）

地域活動支援センター はなぞの（柞原町）

障害者就業・生活支援センターくばら（柞原町）

有料老人ホーム なでしこまるがめ（田村町）

（2）医療機関

三船病院（柞原町）

おかだ小児科クリニック（柞原町）

岸本医院（柞原町）

はやしクリニック（柞原町）

武岡皮膚科クリニック（原田町）

いまい歯科クリニック（柞原町）

おおつか内科医院（山北町）

岸川脳外科医院（柞原町）

城南皮膚科医院（柞原町）

藤本耳鼻咽喉科医院（柞原町）

アズマ歯科クリニック（田村町）

マハロ・デンタルクリニック（山北町）

6 ため池・公園・神社

(1) ため池

★田村池《たむらいけ》田村町・太井池《たいいけ》田村町

田村池（堤長1,356m貯水量364千t）

太井池（堤長368m貯水量39千t）

田村池は、田村町と山北町にまたがる旧市内最大の池である。太井池は、田村池の南西堤防を共有する形で寄り添っている。築造年月日は、はっきりしないが、1710年（宝永3年）ごろ、日照りが長く続いたのを機に、築造されたのではないかとされている。当時は、田村池と山北池に分かれており、田村池北堤の地蔵付近から南に延長した線が、田村町と山北町の町境となっている。この線の東側に旧山

北池が存在していたようだ。現在、田村池はカモやコブハクチョウなど渡り鳥の飛来地として野鳥観察ができるスポットにもなっている。



★馬池《うまいけ》柞原町・庄ノ池《しょうのいけ》郡家町

馬池（堤長800m貯水量109千t）

庄ノ池（堤長1,000m貯水量108千t）

馬池と庄ノ池は、郡家町北端と隣接する柞原町南端に位置し、両池のその間隔は、200m足らずである。築造は、田村池・太井池と同様の理由で築かれたといわれている。この二つの池の他に傍示池（法師池）と下池があったが、傍示池（法師池）は、昭和55年に丸亀市南部の人口増加対策として、西側に隣接していた下池と周辺農地を合わせて、丸亀市立南中学校用地として姿を消した。庄ノ池も四国職業開発大学校（四国ポリテクカレッジ）として、池の東寄り3haが活用されている。

★新池《しんいけ》山北町（堤長108m貯水量6千t）

※近隣の池

蓮池《はすいけ》中府町（堤長600m貯水量33千t）

先代池《せんだいいけ》金倉町（堤長928m貯水量326千t）

(2) 公園

地区内に、公園はなく、近隣に蓮池公園・丸亀市総合運動公園がある。

(3) 神社

★山北八幡宮《やまきたはちまんぐう》山北町

慶長7年（西暦1602年）に現在の場所に移転された。祭神は、品蛇和氣尊《ほむだわけのみこと》

・息長帯姫命《おきながらたらしめひめのみこと》

・玉依姫命《たまよりひめのみこと》。天照大神《あまてらすおおみかみ》・大物主神《おおものぬしのかみ》が合祀されている。もともとは、丸亀城の北側にあったものを丸亀城の南側に移したとされている。



★田村天満宮《たむらてんまんぐう》山北町

祭神は、菅原道真。神徳は、学業成就。西讃府誌によると、菅原道真公が讃岐の守（現在の県知事）となった時、田村に立ち寄られ、後の田村の産土神となったことが書かれている。社殿の建立年などは、はっきりしない。長年、10月の第1日曜日には、田村天満宮の大祭が行われ、氏子付け（宮参り）の赤ちゃんやお参りをする人でにぎわっていた。夜には神楽も奉納されていた。



★三十番神宮《さんじゅうばんじんぐう》田村町

今から約700年前に富屋町から移され建てられた。祭神は三十神である。全国にある番神さんも同じであるが、一神が一日交替で三十日を守り、年間これを繰り返すという。神の世界にも交替制があったことに驚かされる。主たる神は、1日目熱田大明神、10日目伊勢大明神、23日目住吉大明神、30日目吉備大明神。

日蓮宗を広めるため、守るために建てられた番神宮であるので、南無妙法蓮華経と書かれた大石碑が鳥居の横にある。



★林の宮《はいのみや》柞原町

祭神は、素戔鳴尊《すさのおのみこと》。非常に古い神社で、社伝によると宝亀五年勸請（西暦744）とある。柞原は、古くから雑木林の茂った原野であったようなので、林の中の社という意味で名付けられたのかもしれない。



★高幢神社《こうどうじんじゃ》柞原町

西暦861年に住吉大神を祭り建てられた。古くは、高幢明神とも呼ばれ敬われた。現在は、安産の神として敬われている。西行法師が西暦1176年ごろ讃岐路を訪れた時に、高幢神社にも参拝したそうだ。その時に、住吉大神が祭られているのを見て、松の木を三本献上したことに由来する。その松は、枯れた後も、拝殿西側に古木として安置されている。



★三分一天満神社 《さんぶいちてんまんじんじゃ》原田町

祭神は、菅原道真。神徳は、学業成就・文筆・厄除け・子宝・福德。伝えられたところによると、菅原道真公が四十二歳の時、讃岐の守となり、886～890年に管内巡視の際、この三分一に立ち寄られ、当社裏にある堀井戸の水を飲用されたとのことである。後に道真公の徳を仰ぎ、祠を建て祀り、三分一の鎮守にしたのが始まりである。本殿は、氏子の寄進で元禄10年8月（1697年）に大工の藤原重左衛門によって建立されたとのことである。



《菅原道真公好まれの井戸》

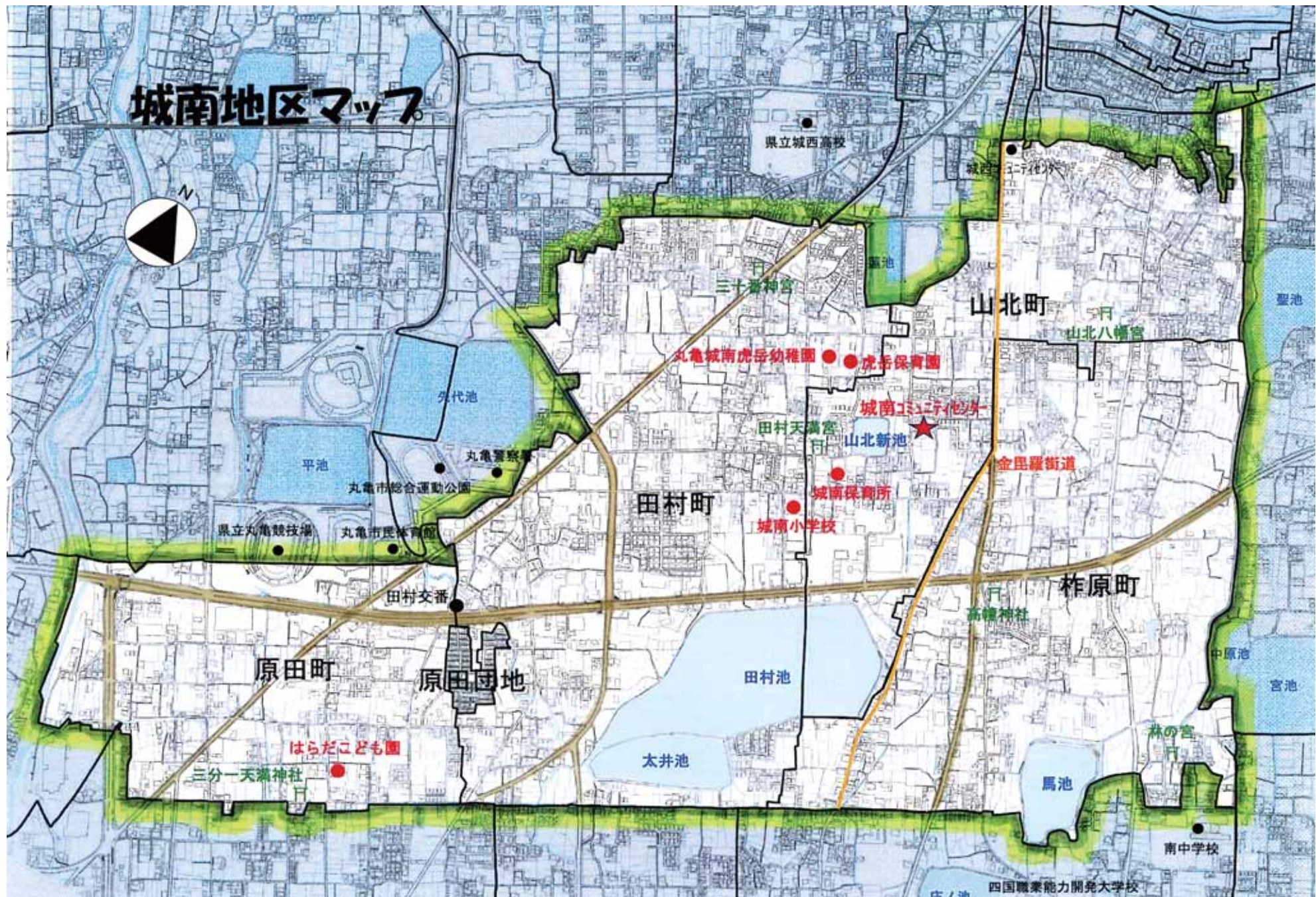


7 歴史街道(金毘羅街道こんぴらかいどう)

江戸時代、香川県は、高松藩と丸亀藩が治めていた。現在の柞原町、土器町も高松藩だった。ということは、丸亀城のすぐ近くまで高松藩が迫っていたことになる。山北町・田村町は丸亀藩。金毘羅街道は、柞原町と山北町の藩境に南北に走っていた。その途中2か所に、今も常夜灯が残っている。昔は、金毘羅参りの旅人でにぎわっていた。森の石松もこの街道を歩いて金毘羅さんに向かったかもしれない。

また、田村町の町中に今も常夜灯があることと、今は、道から離れた観音堂に移されているが小学校北東の上里（あがり）に常夜灯があったことから、もう一つ、「みなみ」を通るルートがあったことがうかがえる。

城南地区マップ



第2章 これからのまちづくり

1 まちづくりの考え方

現代の社会は、ネットワーク網が整備され、世界のどこにいても情報を収集できるようになってきました。家にいながら世界中の情報を得ることができ、誰ともつながらなくても毎日の生活に困ることはない世の中になってきたのです。

しかし、毎年のように日本のどこかに未曾有の災害が起こっていること、突然起こる悲惨な事件、環境エネルギー問題、少子高齢化問題、子育て等を考えた時、人と人がつながり、それぞれの問題に対応していかなければならないことの重要性も見えてきます。社会的孤立が深刻化している現代、地域共生社会を作っていくことが急務であるといえます。

現在の城南地区をみてみましょう。国道11号線をはさみ、大型店舗、スーパー等が立ち並び、生活しやすい環境にあり、新しく転入してくる人が増えてきました。城南小学校の児童数も、小学校始まって以来最高の児童数となっています。また、健康寿命の延伸により高齢者も増えていきます。まちは、にぎやかになってきましたが、反面、田園風景が少なくなり、遊び場は少なくなりました。そして、住民意識は変化し、自治会加入率は低下しています。

そこで、城南地区では、「みんなのみなみ みなみのみんな」をスローガンにまちづくりをすすめていきます。それぞれの人が、自分を大切にしながらふれあい助け合う、そんないきいきとしたまちです。高齢者はこれまで通り大切にし、20年後40年後の高齢者が支え合える、世代をつないだまちづくりを考えていきます。

2 まちづくりの4つの指針

◎安全と安心のあるまち

◎美しく互いにささえあうまち

◎にぎわいと文化のあるまち

◎子どもがすくすく育つまち

上記4つの指針ごとに、それぞれ計画事業があり、その計画事業ごとに「ふれ愛活動」を行っていきます。「ふれ愛活動」とは、障がいのあるなしにかかわらず、大人も子どもも赤ちゃんも、世代を超えて温かくふれあうことのできる活動です。そんな「ふれ愛活動」をコミュニティの各部が連携しながら考え遂行していきます。

3 計画期間

この計画期間は、令和5年度から令和14年度までの10年間とします。そして、毎年、活動を評価する機会をもち、社会の情勢や地域の状況に鑑み、柔軟に対応していくこととします。

4 計画事業

(1) 安全と安心のあるまち

私たちが暮らすまちは、丸亀市の中央部に位置しています。田園地帯が広がり、災害の少ない静かな地域でした。しかし、平成16年の都市計画区域の変更後、スーパーなどの大型商業施設が進出し、生活の利便性が良くなると同時に、急激な宅地開発で住宅が急増し、人口も増加してきました。

前回のまちづくり計画に基づき、安全と安心のあるまちづくりとして、自主防災会や消防団などが中心となり、2年に一度の防災訓練、児童の下校時の安全パトロールを実施してきました。また、自治会加入の促進、防犯灯の設置、環境美化なども推進してきました。

しかし、最近の急激な地域住民の増加や田畑の宅地化により、農家の農業離れがおこり生活環境は変化してきました。以前からの住民と転入者が混在し、自治会未加入世帯が自治会加入世帯を上回るようになりました。そのため、地域の住民同士のつながり薄くなりコミュニティ意識の違いが表れるようになりました。さらに、地域の幹線道路やそれと繋がる狭い生活道路の交通量の増加など、地域内の環境や住民ニーズには変化が生じています。

アンケートによると、各年齢層ともに生活の利便性が良いことをあげている一方で、防犯、交通事故、耕作放棄田やゴミ問題などについては課題であると考えていることがうかがえました。また、人とのつながりについては、若い世代は関心が低く、高齢者になるほど近所付き合い、自治会活動、交通問題などに高い関心があることがわかりました。

これらのことから、住民一人ひとりが自分を守る意識を高めるとともに、地域内のつながりをつかかなものにし、より良い安全と安心のあるまちづくりを推進していきます。



《消防団第6分団 放水訓練》

① 防災事業

今後、高い確率で発生が予想される南海トラフ地震や、頻発する台風や集中豪雨による災害が懸念されています。令和4年度に策定された城南地区防災計画に基づき、防災訓練を見直します。被害をできるだけ少なくするため自主防災会、消防団、市当局と連携しながら継続して行います。そして、住民一人ひとりが、防災に対して関心を持ち、自助（自分の身は自分で守る）、共助（近隣の人たちが協力して助け合う）の位置づけをあらためて考え、地域の防災意識を高めます。みんなで助け合いながら災害に強いまちづくりを進めます。

さらに、他団体などと協力して障がい者や高齢者などの要支援者に対する支援の充実を図ります。

ふれ愛活動

地域防災計画の推進

- 防災訓練の実施
- 防災意識の普及・啓発
- 要支援者への支援体制の強化
- 地域の安全点検の実施
- 防災ステーション・防災公園の設置推進



《城南地区自主防災訓練》



② 防犯・交通安全事業

生活道路や通学路での住民や児童生徒の安全を守り、安心できる生活環境を守るためには、道路整備、交通マナーの向上、住民や企業などの積極的な見守りや声かけが大切です。現在行われている城南小学校の「安全パトロール」、「おはよう隊」の活動を継続します。児童の安全を守るとともに、気軽に隣近所の人たちと挨拶を交わすよう心がけ、人との"ふれ愛"を大切に作る運動を展開します。

また、生活道路や通学路などでは、夜道の安全と安心を確保する防犯灯の設置を呼びかけます。防犯灯の設置は、自治会からの申請が原則となっているので、自治会への加入・組織化は必要です。近隣の人たちとつながることが、地域や地域の住民や自分を守るために必要なことであるとの認識を、住民みんながもつことができるよう自治会加入を促進します。

ふれ愛活動

- 自治会加入の促進活動
- 安全パトロール・おはよう隊の実施
- 防犯灯などの設置呼びかけと設置個所の確認
- 生活道路、通学路の整備事業の要望活動
- 交通安全対策の推進



《学校安全パトロール》



(2) 美しく互いにささえあうまち

まちの美化活動の促進は、住民の生活を快適にするだけでなく犯罪が起こりにくい環境をつくり、心にうるおいをもたらします。前回のまちづくり計画に基づき、清掃活動や花いっぱい運動に取り組んできました。地域一斉清掃は、令和2年度に「みなみクリーンデー」と名称を改め、毎月第2日曜日に、個々に家の周りの清掃に取り組みました。花いっぱい運動では、コミュニティセンターの花壇に、センターに来館する人の目を楽しませるよう季節に合わせた花を植えてきました。しかし、アンケートによると、清掃等の美化活動より、道端にポイ捨てされているごみがあることやペットの糞がそのままになっていることなど、個人のマナーの問題、耕作放棄田・空き家が多いことなどに課題がみられました。

まちは、ここ数年で、宅地化が急激に進み、自然環境は大きく変化してきました。が、まだまだ地域内には豊かな自然が残る「ため池」がいくつもあります。そこは、散歩コースとして高齢者をはじめ多くの人々の健康づくりにも利用されています。アンケートによると、田村池は認知度が高く、大きなため池として野鳥観察の場、小学生の学習の場にもなるなど住民に愛されていることがわかりました。

この豊かな自然環境に恵まれた城南地区は、誰もが住みたくなる地区といえるでしょう。特に高齢になると可能な限り住み慣れた地域で、自立した日常生活を送れることを望みます。城南地区では、福祉施設や高齢者宅への定期的な訪問、高齢者の活動の場（たまり場活動）は、定期的に行われています。しかし、アンケートによると高齢者の不安として、運転免許を返納しても困らない移動手段のこと、困りごとがすぐ相談できる体制があるのかということなどがあげられていました。

住民一人ひとりが、循環型社会の形成を意識できるような働きかけをします。また、地域内で互いに助け合い・支えあって誰もが安心して暮らせる福祉を推進していきます。



《コミュニティセンター花壇》

① まちの美仕事業

現在、実施している「みなみクリーンデー」をより多くの人に意識し、実践してもらえるような働きかけをします。子どもから大人まで参加できる「ふれ愛・健康クリーンウォーク」等の行事を開催することで、世代間の交流を図るとともに、みなみのまちを美しくします。

また、花いっぱい運動を推進し、所有者の理解を求めながら、耕作放棄田に住みみんな花を咲かせようという機運を盛り上げるなど美化活動を展開していきます。さらに、将来的には、「城南地区花いっぱい運動」を地区外にも広めるために写真展などの開催もできるよう推進していきます。

ふれ愛活動

- みなみのクリーンデーの推進
- ごみの減量・リサイクル活動の推進
- ふれ愛・健康クリーンウォークの開催
- マナー向上の啓発運動の推進
- 花いっぱい運動の推進
- 不法投棄防止運動の推進

② 自然環境の保全事業

現在、大きな問題となっている海ごみの7～8割は、街から発生するといわれています。路上に捨てられたごみは、雨などで水路や川に流出します。海の未来を守るためには、一人一人にごみを減らす意識や行動が大切です。河川やため池の学習と保全を行いながら、住民みんなでプラスチックごみを回収するなどの美化活動を行います。次の世代に美しい自然環境を残していきます。

ふれ愛活動

- 自然環境についての学習
- 田村池のクリーン活動
- 地域の自然環境など写真展開催

③ 地域ささえあい事業

誰もが、住み慣れた地域で暮らしやすいと感じられる取り組みを計画実行していきます。これまでの高齢者を尊重した事業を継続し、さらに、「みなみの茶の間」として、それぞれの地域で、近所の人が集まり気軽に話のできる場を広げていきます。高齢になった場合の移動手段については、比較的利便性の高い地域ですが少しでも安心して暮らせる方法について考えていきます。また、日赤社資等募金活動の推進、みなみに住む一人ひとりが自分らしく生きるための支援についても考え実行していきます。

全世代が、この城南地区でいきいきと暮らしていけるように、「ふれ愛」の輪を一層広げ互いに支え合うまちづくりを推進します。

ふれ愛活動

- たまり場活動の継続
- みなみの茶の間の拡大
- 高齢者訪問・福祉施設訪問
- 敬老行事の開催
- 募金活動への協力
- 人権尊重と男女共同参画運動の推進
- 高齢者の移動手段の検討



《城南地区敬老会》



(3) にぎわいと文化のあるまち

私たちが暮らすまちには、以前から住んでいる人たちと新しく転入してきた人たちがいます。そして、受け継がれてきた行事・文化など、大切にしたいものがたくさんあります。

これまで、地域のにぎわいづくりのため、コミュニティをあげて、ふれあいみなみのまつりや夏まつりを行ってきました。また、健康づくりを主な目的に、町民体育祭、各種スポーツ大会、歩け歩け運動などを開催・推進してきました。そのほか、初日の出を迎える会（田村池）は、地域の伝統行事として定着しつつあります。親子料理教室や男性料理教室では、体づくりを考えるとともに郷土料理にも取り組み、また、新しい交流をも育んできました。

アンケートによると、ふれあいみなみのまつりや夏まつりなどのイベントは、多くの人たちの暮らしに定着していることが分かりました。また、健康づくりやにぎわい創出に向けては、公園などの施設を充実してほしい、交流行事をもっと開催してほしい、伝統的な文化・風習を大切にしてほしいという思いを知ることができました。

私たちは、これらをみんなで引き継ぎ、一人ひとりの思いに寄り添い、さらに世代をつないでいく、にぎわいのあるまちを残していきます。コミュニティセンターには、誰もが気軽に立ち寄れるよう、活用を考えていきます。

そのために、各団体と協力しながら "ふれ愛" 活動を展開していきます。住民一人ひとりが地域に対する愛着を深めるとともに、文化の保存につとめ、後世に広く継承していきます。そうすることで、より一層まちの一体感が高まると思われます。さらに、健康づくりを推進することで誰もが住み慣れたまちで健やかに、いきがいをもって暮らせる、そんなまちを目指します。



《チャレンジデー》

① にぎわいの創出事業

にぎわいづくりに向け、ふれあいみなみのまつり・夏まつり・初日の出を迎える会などの行事は、さらに幅広い世代の交流を図れるよう工夫していきます。また、住民が、この地域に住んでいてよかったと思える行事を開催し交流の場をつくります。一方、若年世代にあまり知られていない行事には、SNSなどの新たなツールを取り入れて広く情報発信し、多くの住民参加を促します。

地域活動の拠点であるコミュニティセンターでは、多くの団体が生涯学習クラブ活動を行っていきがいづくりに励んでいます。その活動の成果を発表する機会を随時設け、やりがいのあるクラブ活動になるよう支援を行います。

また、コミュニティセンターにも「茶の間」空間を整備し、誰もが気軽に立ち寄れる施設としての機能の充実を図ります。

ふれ愛活動

- ➔多くの住民の交流を図る行事の開催
- ➔生涯学習活動の成果発表の機会の充実
- ➔コミュニティセンターに「茶の間」空間の創出
- ➔SNSなどのツールを取り入れた地域情報の発信



《ふれあいみなみのまつり》



《初日の出を迎える会》

② 文化の継承事業

田村池・太井池をはじめとするため池や金毘羅街道、神社・仏閣・石碑など、地域には先人たちが築き上げ、代々受け継がれてきた歴史施設があります。毎年、8月には地域内の5か所の慰霊碑の清掃を行い、長い間、大切にしてきました。これからはより多くの住民にこの清掃作業に参加してもらい、城南地区にも戦争によってもたらされた惨禍があることを理解し平和について考える機会をつくっていきたいと考えています。時代の移り変わりとともに住民の価値観は変わってきました。しかし、これらの施設が歴史的価値のある遺産であることに変わりはなく、私たちはその保存に努め、後世に広く継承していく必要があります。

伝承遊びや郷土料理など、地域に伝わる伝統・風習は、まちのアイデンティティであり、将来世代に引き継いでいきます。子どもの健やかな成長を願ってつくる八朔団子馬は伝統文化として制作実演を行います。また、獅子舞は先人たちが保存してきた伝統芸能として身近に触れる機会をつくるなど、積極的に継承支援を行います。

ふれ愛活動

- ➔ため池や金毘羅街道、神社・仏閣・石碑など、歴史施設の保存
- ➔歴史施設の清掃などを通じた平和の継承
- ➔伝承遊びや郷土料理など、地域に伝わる伝統・風習の継承
- ➔八朔団子馬づくりや獅子舞など、伝統芸能の継承支援
- ➔新しい文化の創造探求



《八朔団子馬》



《獅子舞》

③ 健康づくり事業

住民一人ひとりの健康を守るため、各団体と協力し、より多くの住民が参加することのできる食育・体づくりに関する活動に取り組みます。

令和2年から流行している新型コロナウイルス感染症による健康被害は、大きな爪痕をのこし、私たちは、生活スタイルの見直しを余儀なくされました。健康寿命の延伸に向け、健康に対する関心を高めてもらえるよう啓発活動に取り組みます。さらに、心と体の憩いの場でもある公園施設の整備推進を図るなど、健康づくりを進めるための支援を幅広く行います。

そのほか、近年、加齢に伴うフレイル（心身の虚弱）予防には、「社会参加」が大切であるといわれています。気軽にコミュニティの行事に参加できるよう声かけや情報発信を行うとともに、地域活動を通じて人との



《親子料理教室》

つながりをもちながら生活する環境づくりを進めます。また、にぎわいづくりだけでなく健康づくりの視点からも地域の担い手を育成し、住民がいきいきと暮らせる取り組みを行います。

ふれ愛活動

- ➔体力の維持・向上につながる行事の開催
- ➔健康づくりのための啓発活動
- ➔公園施設の整備推進
- ➔フレイル予防に向けたコミュニティ活動の担い手の育成



《郷土料理てっばい作り》

(4) 子どもがすくすく育つまち

子どもは、「学校で学び、地域で育てる」、「地域の宝」、古くから何度も聞いた言葉ではありますが、三世代同居の家族は極端に減り、核家族化は進み、地域のつながりはどんどん薄くなりました。そして、今、地域で子どもを育てることの大切さが声高に叫ばれるようになってきました。

そのような状況の中、令和3年度より、丸亀市では、～地域のよさを知り、地域に愛着や誇りを持つ子どもを育てる～を目標に、市内の小学校を、すべてコミュニティスクールとしました。

城南小学校の児童数は、ここ10年で約100人増となり、1人あたりの運動場面積は狭くなり教室数が足りなくなる状況となりました。新しく転入してくる若い世代の人口が増えることは喜ばしいことです。若い世代の住民と、古くからの住民とが一緒になって子育てにあたると、子どもたちはたくさんの大人に守られていると肌で感じられ、心も体もすくすく育つことができるようになるでしょう。

アンケートによると、多くの人が、コミュニケーションをとれる子どもに、明るく元気な子どもに、あいさつできる子どもに育ててほしい、と願っています。また、地域全体で子どもを育てる環境が必要であるとも答えています。課題としては、親子で参加できる場が少ない、地域でつながる場が少ない、子どもの遊び場がない、親子に関する情報がほしい等、まだまだ、子どもや親を取り巻く環境面での工夫が必要であると思われます。

現在、城南小学校区地域学校協働本部が立ち上がり、子ども支援事業を推進しています。小学校全学年の教育課程内の支援事業や「城南サマースクール」として放課後子ども支援事業も行っています。大人がチームで助け合って活動する姿を子どもに見せることで、協働することの大切さを、いろいろな大人とふれあうことで互いの良さを認め合うこと大切さを、そして、何より温かい大人が住んでいる地域で安心して生活できることのありがたさを感じることができるのではないかと思います。

時間があれば、ボランティア活動に参加したいと思う人も多数いるので、できるだけたくさんの人に参加してもらい、地域みんなで子育てをしていけるよう推進していきます。



《サツマイモつるさし》

① 子ども支援事業

平成30年度から、「城南小学校区地域学校協働本部」を立ち上げ活動をしています。「子どもを真ん中」におき、より多くの地域住民の参画を得てより幅の広い継続的な「地域学校協働活動」を実施します。

また、学校や保育所に通う子どもたちの保護者等にも積極的に声をかけ、子ども支援に関わるボランティアスタッフを増やします。

ふれ愛活動

➔ 地域学校協働本部の年間活動計画……………(教育課程内:別紙)

② 交流事業

子ども会活動、祭り、獅子舞等、地域行事の減少により、地域の大人とのふれあいが少なくなってきています。そのような環境の中で育つ子どもたちに、「城南サマースクール」などを通して"地域の大人の得意"を子どもたちに伝えます。毎年内容を検討しながら続けていきます。また、夏休み等の長期休業以外の日も子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所の確保に努めます。さらに、地域の大人や中学生とも一緒になって行う行事の開催にむけて内容を考えていきます。

子どもがのびのび遊べる場である公園設置等を要望したり、親子の居場所をつくるために関係機関と相談したりしながら場の確保に努めます。

ふれ愛活動

➔夏休み放課後子供教室の開催(サマースクール)

➔子どもや親子の居場所づくりの創出

➔親子で参加する行事の開催

◎親子クリーン活動

◎親子防災訓練

◎親子ウォーキング



《田植え》



《サマースクール》



《稲刈り》



《しめ縄づくり》



《おはよう隊》

地域学校協働本部活動予定

城南小学校

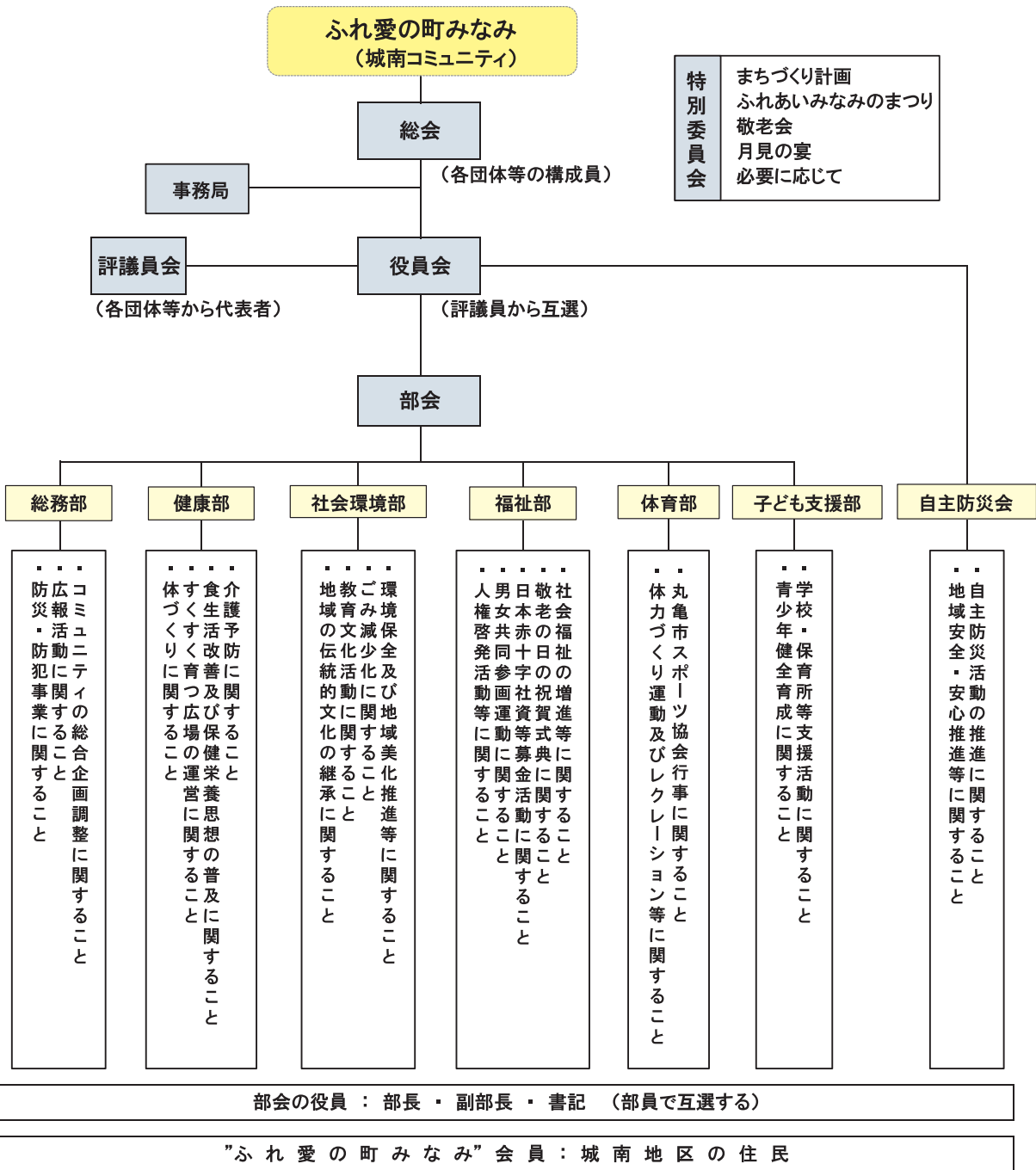
月	全校			1年	2年	3年	4年	5年	6年	城南保育所
	安全P	読み聞かせ	絵手紙クラブ							
4月	😊			下校引率						
5月	😊			朝顔 間引き	野菜畑の準備 夏野菜植え付け	サツマイモ畑の準備 サツマイモつるさし				ぐんぐん畑準備
6月	😊				町探検		田村池学習	田植え		サツマイモつるさし
7月	😊	サマースクール 7月(5日間)								
8月	😊									
9月	😊					サツマイモ収穫		雀おどし取り付け		
10月	😊				野菜畑準備			稲刈り		サツマイモ収穫 ぐんぐん畑準備
11月	😊				冬野菜植え付け	版画学習補助 (彫刻刀)		しめ縄準備	生け花教室	
12月	😊							しめ縄作り	絵手紙教室	
1月	😊			昔の遊び						
2月	😊								茶の湯教室	
3月	😊									



おはよう隊活動日 毎月10日 (休日と重なるときはその後)

第3章 資料編

1 コミュニティ組織一覧



構成団体

- ① 連合自治会
- ② さわやかクラブ（老人会）
- ③ 民生児童委員
- ④ 福祉ママ会議
- ⑤ 食生活改善推進協議会
- ⑥ 環境美化推進員
- ⑦ 消防団第6分団
- ⑧ スポーツ協会城南支部
- ⑨ 校区地域学校協働本部
- ⑩ 城南母子愛育班
- ⑪ 城南小学校
- ⑫ 城南保育所
- ⑬ 丸亀城南虎岳幼稚園
- ⑭ 虎岳保育園
- ⑮ はらだこども園

2 主な事業内容一覧

2 主な事業内容一覧

	総務部	健康部	社会環境部	福祉部	体育部	子ども支援部	事務局
主な事業内容	広報作成・広報活動 防災・防犯事業	食生活改善 保健衛生 すくすく育つ広場 健康・体づくり 介護予防	伝統行事継承 環境保全 地域美化推進 教育文化	地域福祉 日赤社資 男女共同参画 人権啓発	市スポーツ協会行事 体力づくり 生涯スポーツ	健全育成 小学校・保育所 子ども園・幼稚園との連携	コミュニティセンター管理運営 広報作成・発行 役員会・評議員会準備
ふれ愛活動 △は検討事項 ★は新規事業 その他継続事業	みなみ作成 自主防災訓練 安全パトロール ふれあいみなみのまつり 月見の宴 初日の出を迎える会	料理教室 すくすく育つ広場 ★ちびっこみなみ ★みなみの茶の間	慰霊碑清掃 八朔団子馬づくり △史跡巡り クリーン活動 コミセン緑化 △花いっぱい運動 ★親子クリーン活動	チャリティバザー 高齢者訪問 敬老会 赤い羽根共同募金 ★みなみの茶の間	夏まつり 歩け歩け推進 チャレンジデー △親子ウォーキング	安全パトロール 小・保等支援活動 ★親子クリーン活動 △親子ウォーキング △子どもの居場所	
月	ふれ愛活動（◎印は、他の部とともに活動）						
4月	みなみ作成					1年下校指導 2・3年野菜畑準備	
5月		料理教室			チャレンジデー	2年野菜植え付け 3年保イモつる挿し	みなみ発行
6月	みなみ作成	健康講座	花の植え付け ◎田村池学習			◎4年田村池学習 5年田植え	
7月		健康講座	郷土料理（老人会）			2年町探検 サマースクール	みなみ発行

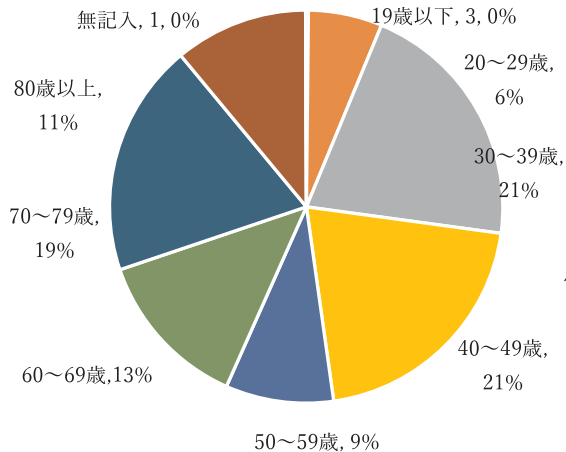
8月	みなみ作成		慰霊碑清掃 ★親子クリーン活動		夏まつり	★親子クリーン活動	
9月	月見の宴		八朔団子馬づくり	敬老会		5年案山子立て 2年野菜畑準備	みなみ発行
10月	みなみ作成			赤い羽根共同募金		2年冬野菜植え付け 3年保イモ収穫 5年稲刈り	
11月		料理教室	花の植え付け	チャリティバザー		6年生け花教室	みなみ発行
	◎ふれあいみなみのまつり						
	◎大掃除						
12月	みなみ作成	料理教室				6年絵手紙教室 5年しめ縄教室	
1月	初日の出を迎える会	料理教室	郷土料理（老人会）			1年昔の遊び	みなみ発行
2月	みなみ作成	料理教室				6年茶の湯教室	
3月	自主防災訓練						みなみ発行 自主防災訓練
年間通じて	安全パトロール ★sns等の情報発信 ★安全点検の実施 おはよう隊 公園施設の整備促進	すくすく育つ広場 たまり場活動 ★みなみの茶の間 ★ちびっこみなみ	△マナー向上啓発運動 △池のごみ回収 △不法投棄防止運動 △ゴミ減量活動 クリーン活動	高齢者訪問 たまり場活動 ★みなみの茶の間	歩け歩け推進	おはよう隊 安全パトロール 本の読み聞かせ	

3 アンケート結果と分析

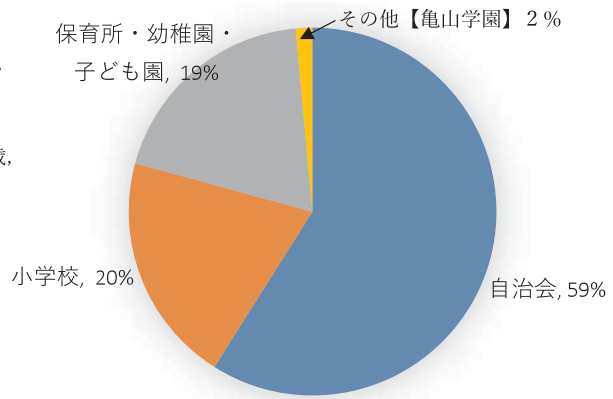
実施期間：令和4年9月

回収状況：配布数 2,639 部に対して回収数 1,786 世帯（回収率 67.7%）

① あなたが該当する年齢層は

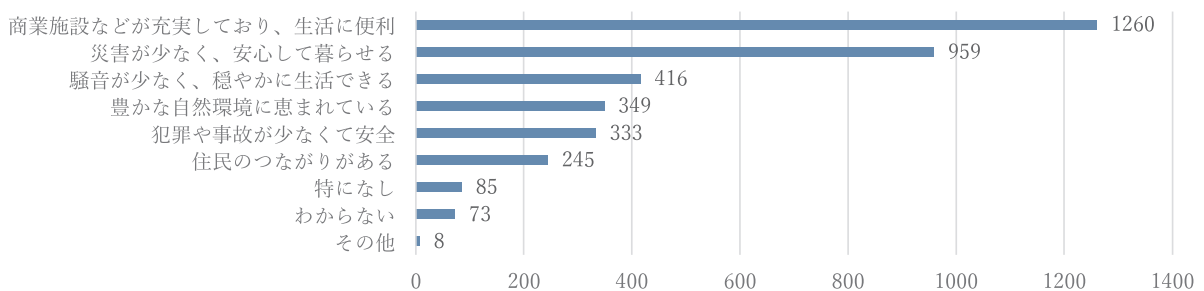


② どちらからアンケート調査の協力依頼を依頼されましたか



「暮らしやすいと感じるところは」との質問に 70.5%の人が「大型店舗や商業施設等が充実し、生活するのに便利」と回答しています。また、「災害が少なく安心して暮らせる」と 53.7%の方が答えており、アンケートから安心して暮らせる地域であることが伺えます。一方、「暮らしづらいと感じるところは」との質問に「夜間、暗いところが多く防犯上不安」が 29.8%、「ため池・水路が近いため、大雨・地震が発生すると不安」が 23.9%を占めましたが、「特になし」という回答も 26.4%ありました。

③ 暮らしやすいと感じるところは(複数選択可)



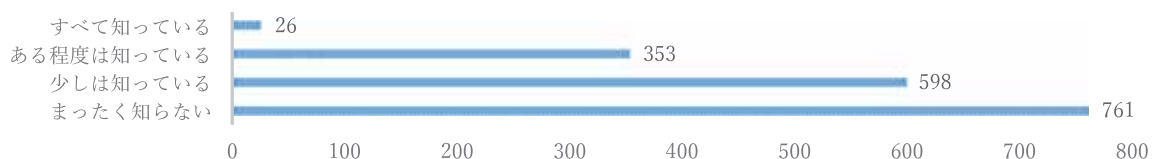
④ 暮らしづらいと感じるところは(複数選択可)



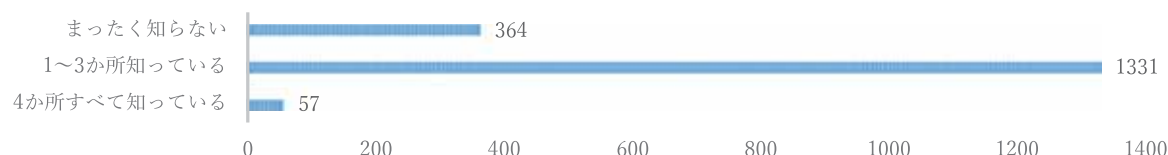
自然災害が発生した場合に、金倉川や田村池、太井池等のため池の氾濫による浸水想定範囲を「全く知らない」と回答した人が42.6%と多く、また、4か所の指定緊急避難場所について「まったく知らない」との回答が20.4%でした。そのほか、安心して暮らすために「緊急支援物資の備蓄(47.3%)」、「危険箇所を見つけ改善につなげる(42.3%)」、「日ごろからの住民への情報提供が必要(37.5%)」という意見が多く、今後の課題としてあげられます。

自治会活動は、「助け合って生活していくために大切な組織(26.7%)」、「隣近所と知り合えるきっかけになる組織(21.2%)」と肯定的な回答が多い反面、「高齢化が進み、運営が困難(31.4%)」と自治会が直面する問題が表面化する一方、「役割が当たるのが煩わしい(22.2%)」「自治会がなくても特に問題がない(14.8%)」といった消極的な回答も多数あります。

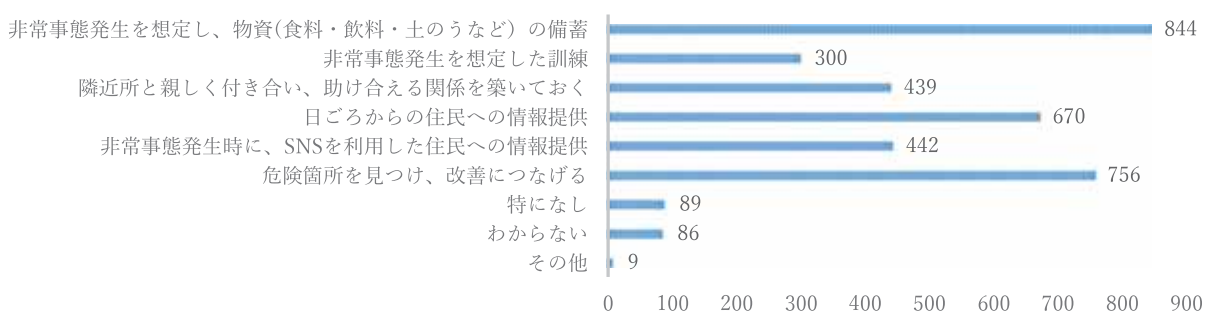
⑤自然災害が発生したときの浸水範想定範囲をご存じですか(選択は1つ)



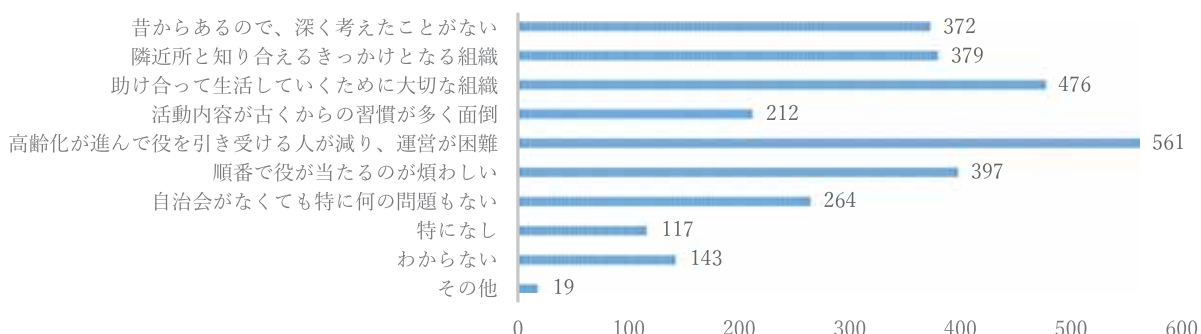
⑥自然災害が発生した時の指定緊急避難場所をご存じですか(選択は1つ)



⑦住民が安心して生活を送るため、城南地区に何が必要だと思いませんか(選択は3つまで)



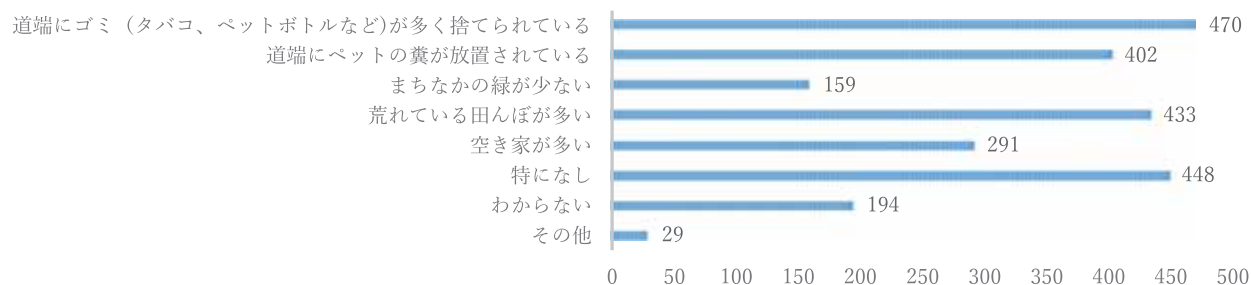
⑧自治会活動について、あなたの考えに近いものは(複数選択可)



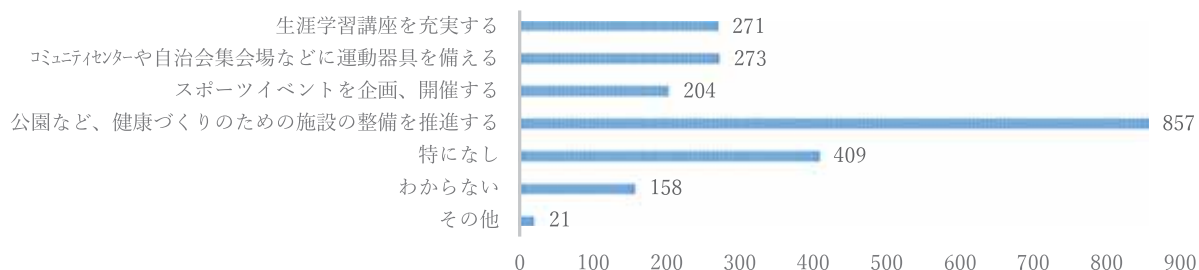
まちの美化については、「道端にゴミやペットの糞が放置されている（48.8%）」、「荒れている田んぼや空き家が多い（40.5%）」といった意見が寄せられました。

健康づくりについては、「公園など、健康づくりのための施設の整備を推進する」という回答が48.0%を占め、高齢になっても安心して生活を送るために、「運転免許証を返納しても困らないよう、移動支援サービスを実施する」という意見が60.4%と最も多く、高齢化社会を迎えた今日の検討課題の一つにあげられます。

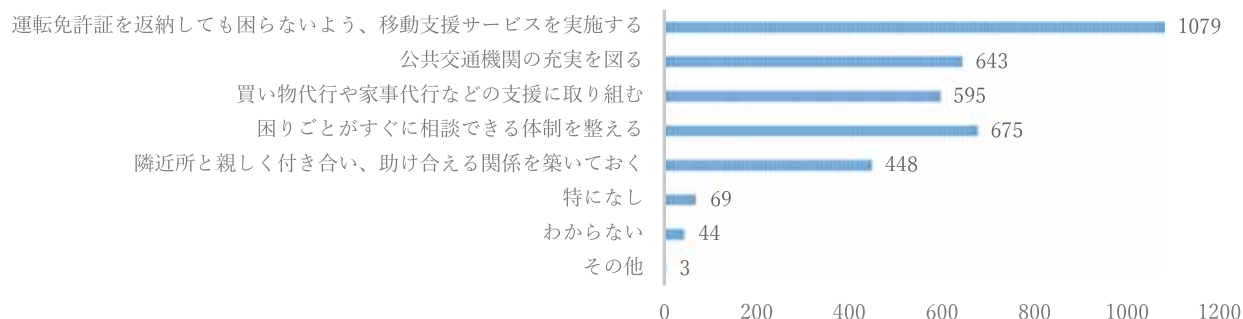
⑨「まちの美化」に関する問題について(複数選択可)



⑩健康づくりに向け、何が重要だと思いますか(複数選択可)



⑪高齢になっても安心して生活を送るため、地域で大切なことは(選択は3つまで)

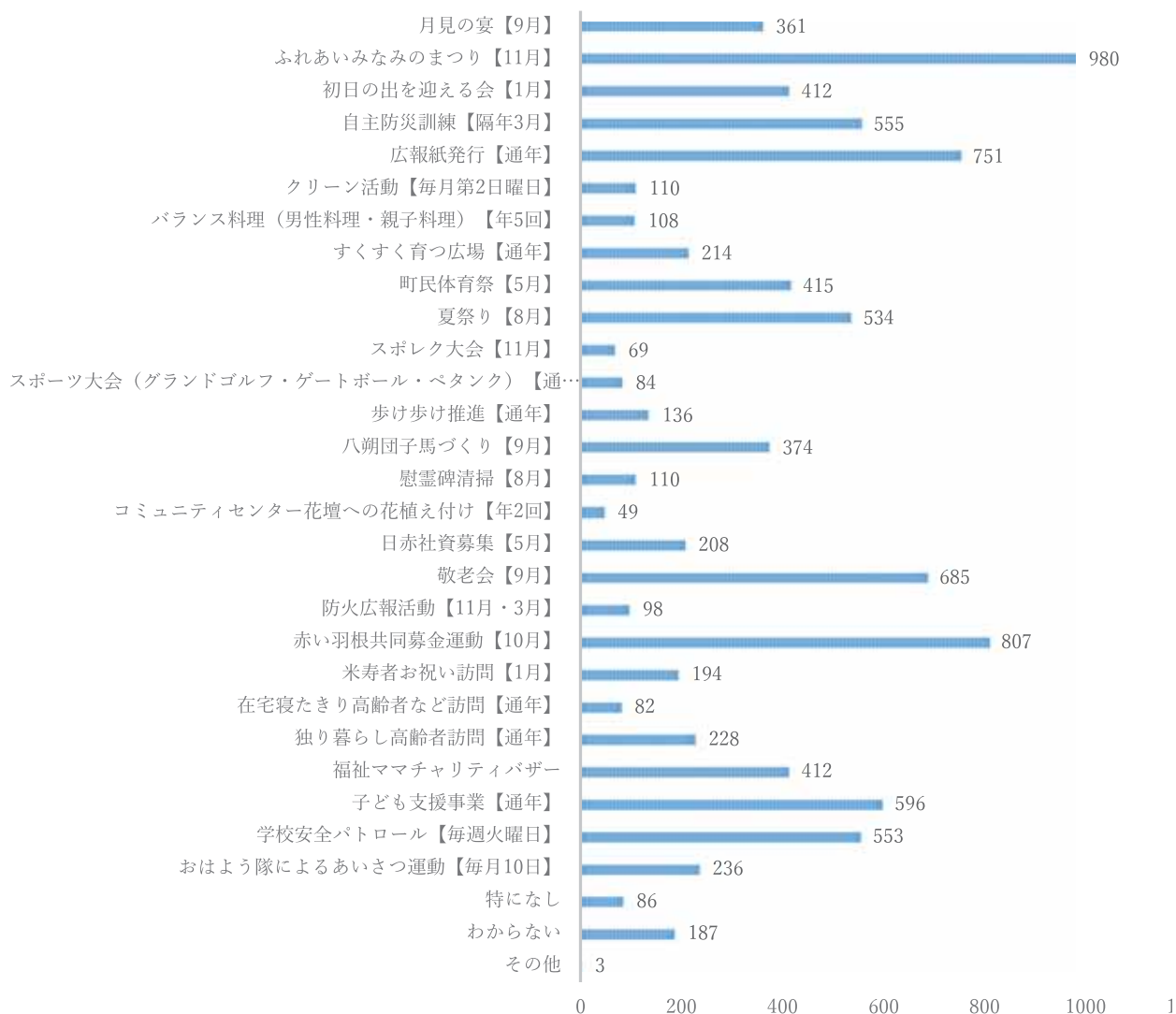


城南地区数ヶ所に看板を設置しています。
広がれ あいさつの輪

コミュニティ活動の認知度に対する質問では、「ふれあいみなみのまつり」が最も多く（54.9%）、「赤い羽根共同募金運動（45.2%）」、「広報誌発行（42.0%）」、「敬老会（38.4%）」の順となっています。

地域のにぎわい創生に向けて大切にしたい取り組みとして、「伝統的な行事・風習(獅子舞・八朔団子馬づくり等)」が最も多く（32.4%）、「公園などの整備や推進（32.1%）」、「コミュニティが開催する交流行事を行う（31.4%）」等も回答の多数を占めています。

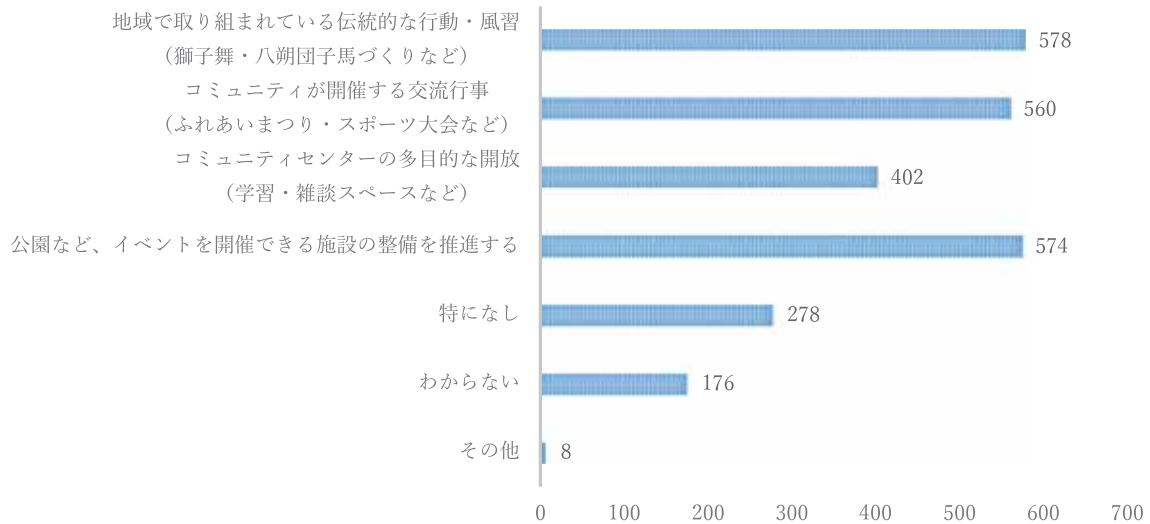
⑫城南地区で行われているコミュニティ活動について知っているものは(複数選択可)



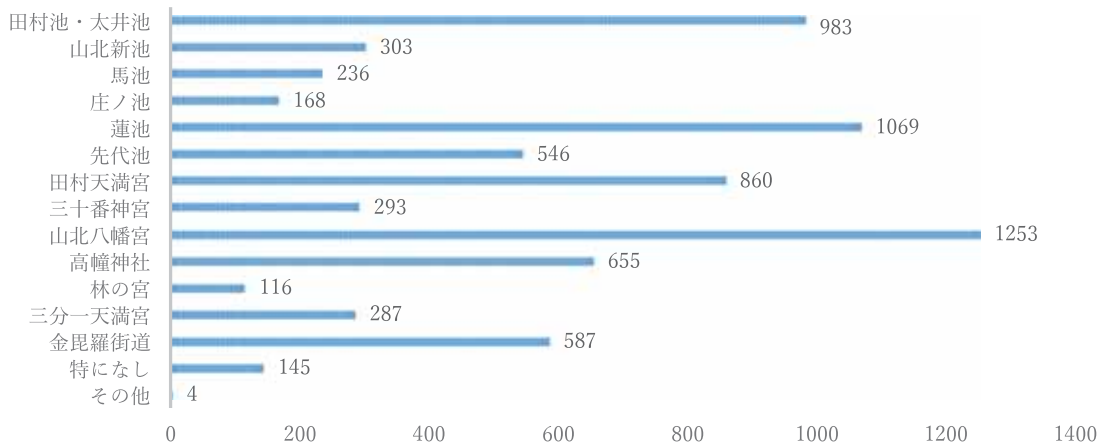
知っている歴史的な場所については、山北八幡宮、田村天満宮のほか、金毘羅街道や蓮池、田村池・太井池などのため池があげられています。田村池・太井池をはじめとするため池の多くは灌漑設備として築堤されましたが、耕作離れが進む現在は、野鳥観察ができる景観スポットや、散歩やジョギングのコースとして健康づくりができる場所としての認識が高くなっています。

「ボランティアとしてコミュニティ活動に協力したいですか？」との質問には「時間が許せば協力したい」との回答が最も多く（33.7%）、「自分の力が活かせる分野で協力したい(14.5%)」、「将来的には協力したい(14.2%)」と肯定的な意見をいただきました。

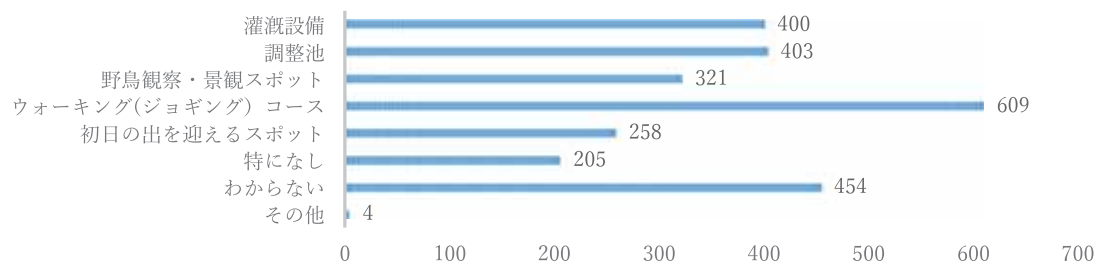
⑬地域のにぎわい創生に向け、大切にしてほしいと思う取り組みは(複数選択可)



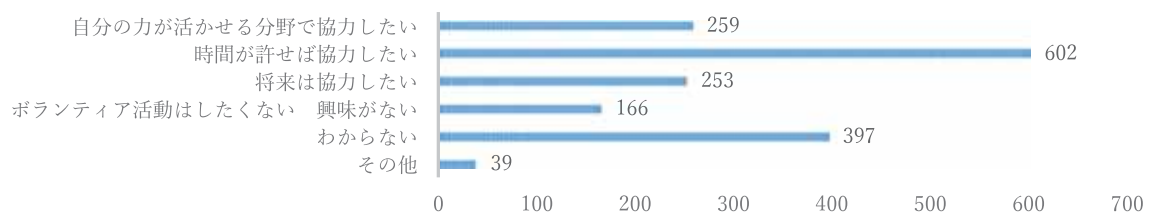
⑭近隣地区を含め、あなたが知っている歴史が古い施設は(複数選択可)



⑮三百年ほど前に築堤され、市内有数の規模を誇る「田村池・太井池」についてあなたの考えに近いものは(複数選択可)



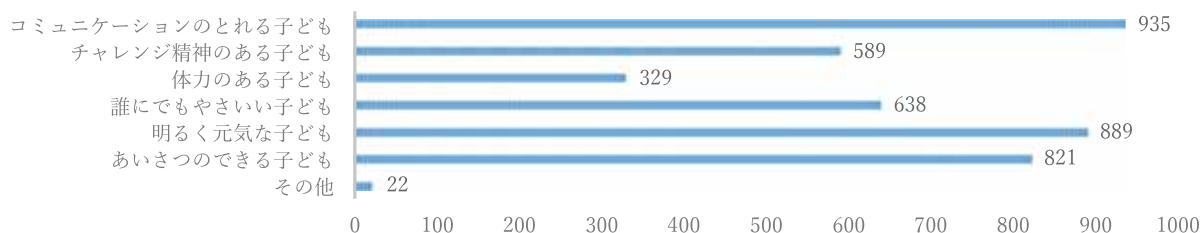
⑯ボランティアとしてコミュニティ活動に協力をしたいですか(選択は1つ)



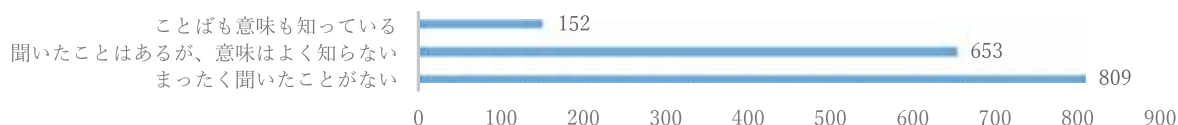
これからの時代に「コミュニケーションのとれる子ども（52.4%）」、「明るく元気な子ども（49.8%）」、「あいさつのできる子ども（46.0%）」を育てたいと思う意見が約半数を占める中、地域と学校が連携して子どもを育てるコミュニティスクールについては「全く知らない（45.3%）」、「聞いたことはあるが意味はよくわからない（36.6%）」という回答が多く、制度として歴史が浅く、住民に浸透していないことがわかりました。

心豊かな子どもを育てていくうえで「地域と学校が連携し地域全体で子どもを育てる環境」が必要であるとの意見が最も多いことから（56.4%）、コミュニティスクールに寄せられた期待は大きく、また、「子どもが安心して遊べる公園などの施設整備を推進する（51.2%）」という意見も寄せられており、地域と行政との協働が大切であることがわかりました。

⑰これからの時代において、どういう子どもを育てたいと思いますか（選択は3つまで）



⑱「コミュニティスクール」について、あなたの考えに近いものは（選択は1つ）



⑲心豊かな子どもを育てていくうえで、地域にどのような環境が必要だと思いますか（選択は3つまで）



⑳生活していくうえで何か気になることがあれば記入してください。

小学生以下の子どもがいる世帯では、道幅のわりには交通量が多く、交通マナーや外灯が欲しいなど、子どもが安心して通学できるのかを心配されている意見が多くありました。また、公園の整備を含めて、子どもが安心して居場所や参加できるイベントなどがあればという意見も多数ありました。

高齢者の世代では、健康面の不安や移動手段の心配などが多く見受けられ、自立して、いつまでも地域で住み続けられるように、皆の協力が必要だと感じているようです。

㉑城南コミュニティに対し、メッセージがあれば記入してください。

期間は様々ですが、城南地区に引っ越してきて住みやすい、環境がいいという意見が多数ありました。色々な世代や、様々な価値観をお互いに理解した上で、地域が活性化できる「まちづくり」を、誰もが願っている事がメッセージに込められていました。

4 計画策定資料

(1) 策定までの経過

- 令和4年 4月26日 ふれ愛の町みなみ役員会にて「まちづくり計画」について検討
5月27日 ふれ愛の町みなみ役員会にて「まちづくり計画」について検討
第1回準備委員会の開催日を決定する。
6月25日 第1回「まちづくり計画」準備委員会開催
「まちづくり計画」の基本方針について検討、決定
6月30日 関係団体に「まちづくり計画」策定委員選出依頼文を発送
7月29日 第2回「まちづくり計画」準備委員会開催
「まちづくり計画」の策定委員名簿（案）について検討
8月21日 第1回「まちづくり計画」策定委員会開催
「まちづくり計画」策定スケジュール説明
「まちづくり計画」に伴うアンケート調査
（内容・方法について検討）
8月末・アンケート依頼
（自治会・小学校・保育所・幼稚園・こども園の保護者へ）
締切 10月初め 集計 10月
2,639世帯発送、1,786世帯回収 回収率 約68%
11月17日 第2回「まちづくり計画」策定委員会開催
アンケート調査集計、結果報告
基本方針別に班割しフリートーク（成果と課題について等）
11月27日 第3回「まちづくり計画」策定委員会開催
基本方針別に班割しワークショップを開催
（各班ごとに原稿の作成）
令和5年 1月22日 第4回「まちづくり計画」策定委員会開催
各班作成の原稿内容の検討
1月31日 各班代表者会
原稿の検討
2月14日 最終調整
2月28日 協議、承認、最終校正
3月4日 承認、最終校正



(2) 城南まちづくり策定委員名簿

氏 名	所 属 及 び 職 名
五百森 信 幸	ふれ愛の町みなみ会長
坂 田 久 男	ふれ愛の町みなみ副会長／地区連合自治会会長
入 江 義 雄	ふれ愛の町みなみ副会長／社会部部长／さわやかクラブ会長
山 内 繁	ふれ愛の町みなみ副会長／民生児童委員協議会会長
戸 谷 博 雄	地区環境美化推進員代表
香 川 智 子	地区福祉ママ会議／婦人部部长
川 内 千恵子	地区食生活改善推進連絡協議会
矢 敷 茂 伸	ふれ愛の町みなみ 総務部部长
畑 山 京 子	ふれ愛の町みなみ 保健部部长
西 野 節 子	ふれ愛の町みなみ 体育部部长
横 井 隆 浩	ふれ愛の町みなみ 体育部
塚 本 好 則	ふれ愛の町みなみ 環境部部长
横 井 久 義	ふれ愛の町みなみ 福祉部部长
眞 鍋 ひとみ	ふれ愛の町みなみ 学校支援部部长
守 屋 安 則	ふれ愛の町みなみ 自主防災会部部长
東 條 勲	スポーツ協会 城南支部支部長
北 村 伸 二	消防団第六分団 分団長
高 橋 善 博	消防団第六分団 副分団長
金 地 志 保	城南母子愛育班 班長
田 淵 裕 士	城南小学校 P T A会長
眞 鍋 直 子	城南小学校 P T A
島 村 昌 宏	城南保育所 保護者会会長
高 木 麻里子	虎岳幼稚園 P T A会長
香 西 由 美	虎岳保育園 保護者会会長
小 野 光 之	はらだこども園 保護者会会長
野 田 大 順	社会福祉法人四恩の里 亀山学園 園長
眞 鍋 眞 紀	市立城南小学校 校長
佐 藤 澄 水	市立城南保育所 所長
土 井 マスミ	丸亀城南虎岳幼稚園 園長
土 井 裕 子	虎岳保育園 園長
石 田 弘 恵	はらだこども園 園長
横 山 史 朗	丸亀市都市計画課／地域担当職員（まちづくり担当）
大 西 初 美	丸亀市税務課／地域担当職員（まちづくり担当）
藤 井 竜 太	丸亀市福祉課／地域担当職員（防災担当）
小 野 陽 子	丸亀市健康課／地域担当職員（保健担当）
小 川 理 子	丸亀市社会福祉協議会
山 地 淳 之	城南コミュニティセンター 事務局
田 中 和 代	城南コミュニティセンター 事務局

みなみの昔のちょっといい話

その1 「田村池に桜並木が？」

昭和3年頃、山北町出身のアメリカで成功した中島さん。ワシントンの桜並木に思いをはせたのか、田村池を桜並木にしようと計画し、関係者と相談し、田村池の堤に桜を植樹した。50m間隔くらいで植えていくとその数は、何百本にも達したという。桜は堤で1年2年は育ったが、雑草が多いことやなかなか手入れが行き届かなかったこと、それに、時が戦時下に移り、桜は見捨てられた。今、もしあれば、すばらしい桜並木が見られたことだろう。

その2 「城南に楽団が？」

昭和8～9年頃、城南小学校に内海先生という音楽に通じた先生がいた。通町の映画館から、古い楽器をもらい受けたことをきっかけに、青年団で音楽隊を結成した。練習は、小学校で、内海先生の宿直の日にする事となった。楽器は、クラリネット、サクソ、ホルネット、大太鼓、小太鼓。初練習の日から5ヶ月後、小学校の運動会の入場行進で演奏したのがデビューだった。生の音楽隊にあわせて行進する児童に、運動場を取り巻く村民の驚きは格別だった。運動会が終わった後も、音楽隊の評判は高まるばかり。不況のどん底にあった農村社会の灯火となった。が、時は戦時下に移り、音楽隊も消えていった。

参考文献

讃岐のため池誌【H11年調査】参照
みなみのむかし【H16年発行】参照

城南まちづくり計画Ⅱ

発行 令和5年3月
発行者 ふれ愛の町みなみ
編集 城南まちづくり計画 策定委員会
〒763-0072
香川県丸亀市山北町200-1
TEL・FAX 0877-24-0981

